

岩手県 認知症高齢者グループホームつくしの里

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

自 己 評 価 票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度前からグループホームの必要性を認識し、設置。入居者が主体となれる生活が出来、個人の尊厳が保たれ、地域と共に暮らしていけるようにと理念を作った。	3本柱の理念を基に、毎年努力目標・実施細目を作成し、目標達成に向け取り組みを行っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	つくしの里の三本柱の理念を基に、毎年度毎に努力目標・実施細目を掲げ、チーム編成し取り組んでいる。	毎月の職員会議等でチームの取り組み状況を報告し、次の段階へ進めていくようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には来所時や毎月のおたより送付時、年4回の広報等を通して生活の様子を伝えるようにしている。又、地域の方々には広報を回覧板でまわしていただき、行事参加したり交流を図り、理解を深めてもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の民生委員の方やお寺の方に声をかけてもらったり、近くの小学校と交流を図ったりしている。又、夏祭りや明生園まつり等の開催時には近所の方を招待し、参加していただいている。	地域の方々との交流の機会が徐々に増えてきているので、今後もつくしの里への理解を深めていただけるよう交流機会をつくっていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板をまわしていただいているので、地域行事の把握が出来、近所の方々と一緒に参加することで地元の人々と交流が図れるようになった。	○ 地域の年間行事も把握できているので、可能な限り地域行事に参加して交流を図り、信頼関係を築いていきたい。

(事業所名 認知症高齢者グループホームつくしの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	視察・見学・電話相談等積極的に受け入れたり、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。	○	今年度の目標の1つでもある、地域のニーズの把握をし地域貢献に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ各自で自己評価を行い、その後話し合った結果を事業所の自己評価にまとめ、サービスの質の向上に努めている。評価結果は会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の状況や活動の報告、年度目標等の取り組みの報告等を行い、助言や意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中で市町村担当者に協力をあおぎ、機会をつくれるようにしている他、グループホームの定例会等にも参加してもらう機会を設けている。	○	ブロック定例会の際に市の担当の方や消防の方より防火安全対策についての集団指導を受けた。(H20年7月)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年同法人のグループホームで市より担当の方を招き勉強会を行い、一緒に参加してきた。現在の所は成年後見等の必要なケースはまだないが、必要な人には活用できるよう対応したい。	○	今年度も一度学習会を行い、制度等への理解を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所長より職員会議等で高齢者虐待防止関連法についてや、事件等の情報提供あり、指導等受けている。	○	学習会等も開催し、虐待の種類や内容等把握しスタッフ間でも注意を払うようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項等含めて十分な説明を行い利用者や家族の同意を得るようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	去年は介護相談員の方が数回来られ、入居者やスタッフと話をする場を設けた。		今年度はまだ介護相談員の方が来られていないが、運営推進会議等に入居者も参加し、意見を聞き出せるようにしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の行事予定表送付時に1ヶ月の本人の様子等をお知らせしているほか、広報(年4回)でも入居者の暮らしぶり、スタッフの様子等報告している。金銭管理については月1回出納長のコピーを送付し、預り金の詳細を明らかにしている。		緊急時や相談等は都度電話で連絡をとり、報告するようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	オンブズマン制度を導入し、苦情の解決に対応できるようにしている他、面会時や電話時にも対応している。家族等の意見はケアプラン作成時等に反映できるようにしている。	○	家族会の発足等希望があればすすめていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議等で意見や提案等あった際は議題にあげ話し合うようにしている。		気付いた事、提案事項等はなんでもノート等も活用し、記入している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態の変化に応じて、スタッフ間で話し合いを持ち、対応が図れるよう勤務調整を行っている。		スタッフの急病や急な休みのときに応援してくれる人も確保できている。バックアップ期間として併設施設もあるので協力体制は確保できている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職は必要最小限に抑えるようにし、可能な限りなじみのスタッフで支援できるようにしている。又、副担当ももうけ、入居者・家族に不安を与えないよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修をはじめ、海外の先進地視察研修やグループホームの定例会、各種研修会等にも参加できるよう機会をつくってもらっており、とても参考になっている。	○	今後も積極的に研修会等に参加していき、日々のケアに反映していきたい。又、今年度はOJTへの取り組みも予定している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のGH協会の定例回答にも毎月スタッフが交替で参加し、情報交換や交流の場となっており、横のつながりもできている。	○	同法人に3つのグループホームがあるので、行事や研修等参加し、交流の機会を設けているので、情報交換等行いながら互いの質の向上につなげていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同法人やGH内での親睦会等への参加の他、GH同士の交流会にも積極的に参加し、ストレス解消を図っている。業務用の悩み等はスタッフ間で協議・検討し改善を図っている。	○	スタッフの精神的ストレスの緩和のための専門的な支援があればいいと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	他の事業に比べれば働きやすい環境を整えてもっている方だと思う。(話をきいた限りでは)資格取得や研修の受講等への支援もとってもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調時や来所時等に本人の不安を少しでも取り除けるよう、言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション等織り交ぜ、安心感をもっていただけるよう努力している。	○	コミュニケーション技術を習得し、その人その人に応じた対応を心がけたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者の家族のこれまでの思い・苦労話等をじっくり聴き、家族としての不安をいづらかでも和らげられるような対応を心がけている。	○	面接技術等も習得できるよう、学習会等行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の話をよく聞き、状況を見極めながら、必要に応じた支援が提供できるよう対応している。		グループホームの中だけでは解決困難だと思われる場合、前ケアマネ等にも連絡し、調整が図れるようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんて馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースバイケースであるが、まず見学していただき、ご本人が混乱しないようお試し入居の期間を設け、徐々に馴染んでいただいた上で入居の契約をするようにしている。		なるべく早くご本人が馴染んでいただけるよう情報を収集し、安心できる雰囲気作りを心がけている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習や習わし、生活の知恵など入居者の方々の経験を生かしながら色々と教えていただき、一緒に生活する家族の一員のような関係がつけられるようにしている。		教わる→感謝する→自信につなげる関わりをもつ…を常に念頭に入れておく。又、本人の哀しみや不安を敏感に感じ取れるよう、小さなサインも見逃さず、スタッフ間で観察していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の身体状況と精神状況を本人の思い等も含め伝え、家族の方からも情報提供していただいたり希望等も伺うようにしている。		本人の思い・家族の思い等両者の思いを理解しながら、時に橋渡し役になっていけるよう、家族と共に支えあえるような関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各行事に案内を出し、できるだけ一緒に時間を過ごせるように呼びかけ、来所時にはスムーズになじめるようフォローしたりし、支援している。		本人と家族には一人ひとりの様々な関係があるので、困難なケースもあるが、できるだけあゆみよれるような関わりをし、関係が修復できればと思う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している美容院やいきつけのお店、かかりつけの病院を利用し、友人や知り合いに会えるよう調整したりし、できる限り本人の希望に沿えるよう支援している。		今後も可能な限り本人の希望を尊重した生活が送れるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方の中には気の合う方、そうでない方、又お互いの行動を理解できないケース等もあるので各人の性格や個性を把握しつつ、場合によっては間に入って調整を図るようにしている。		日々の生活の中で入居者同士の関係をよく観察し、仲介役になれる人をみつけ、うまく支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等で契約が終了した場合でも退院後の相談にのり、次の入居先を探す等の協力をしている。又、他の事業所に移られた方にも入居者と一緒に遊びに行ったりしている。	○	今後でもできる限りの協力をしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉の真意を汲みとれるようスタッフ間で協議し対応を図るようにしている。言語コミュニケーションが困難な方には非言語コミュニケーションでアプローチしたり、センター方式を活用したりし、把握に努めている。	○	コミュニケーションの7割は非言語コミュニケーションから得られるとの事なので、一人ひとりの思いや真意を表情、しぐさ等から読み取り、本人の意向に近づけるようスタッフ間で協議していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調時のききとりや、体験利用時・入居後と本人や家族から徐々に情報収集に努め、日々の生活の支援につなげるようにしている。	○	プライバシーの問題もあるので、立ち入った内容の話はある程度信頼関係ができてから聞くようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのペースや状態は各スタッフ共把握しているが、日によって細かな変化が見られる時もあるので、いつもと違う行動や言動がある時はその都度報告し合い、把握できるようにしている。	○	出来る事、出来ない事もその時々により変化するので、本人のペースに合わせた関わりをもち、自信を失わせないように対応を図る。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・前担当ケアマネ等から情報収集し、希望も取り入れながら、カンファレンス等で検討し、作成している。		ケアカンファレンス等で各スタッフからの意見や気付きを出してもらい、プランに反映させるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、入居者の状況等話し合い、変更の必要性がある時は、プランの立て直しを図るようにしている。		本人の意見希望等が見出しづらい場合は、センター方式等活用し、本人の思いを汲みとれるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の毎日の生活は時間毎に記録し、特記事項を業務日誌に記入する他、個人のケース記録も作成し、いつでも確認できるようにしている。	○	パソコンで入力するようになったので、グラフや表等の組み合わせも検討し、より見やすい記録にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望があれば可能な限り臨機応変に対応するようにしている。	○	来年度よりショートやデイの受け入れも可能になる予定なので、地域のニーズ把握等行いながら前向きに検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	移動図書館の利用やボランティアの受け入れの他、市の文化・教育機関主催の舞踊ショーに招待されたりし、観にいたりしている。 近所の民生委員の方も時々顔を出してくれる。		消防署は年1回、総合防災訓練の際来ている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	民区が開催する健康体操に参加したり、出張サービスのある理髪店に訪問していただいたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在権利擁護等のケースがなく、ほとんど地域包括支援センターとの協働は図っていないのが現状。	○	成年後見制度等の必要な入居者が出てきた際は、相談等行い、地域包括支援センターの協力を仰ぐようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながら個々のかかりつけ医を受診している。 新規で受診する場合は本人・家族から了承を得ている。		併設施設に嘱託医もあり、回診時に診てもらうこともある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の症状等によって各専門医を受診し、相談・助言等いただきながら治療を受けられるようにしている。		医師にもよるが、親身に話を聞いてくれたり、気になる事を気軽に話せる病院もあり、安心して受診できるところもある。今後も受診の必要性のある入居者がいれば本人・家族と相談しながら検討していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	昨年より看護師配置になり、入居者の健康管理や医療面でのアドバイス・指示等受けられるようになった。又、併設施設にいる看護師にも急変時や健康診断時等に対応してもらっている。		緊急時や夜間の急変時等も対応してもらえるので、とても心強い。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	各医療機関に入院を受け入れてもらっており、必要に応じて家族・医師等と入院時や退院後の対応を話し合っている。	○	入院時は数日おきには顔を出すようにし、本人や医師、看護師、家族等と情報交換し、できるだけ早期退院できるよう連携している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の説明時に一通りの説明はしたが、入居者の状態に応じて現実的にとらえられる家族とそうでない家族があり、差を感じた。	○	家族アンケート等で家族の意向を把握し、入居者一人ひとりにとってよりベストな選択ができるよう各段階に応じて話を進めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の検討の必要のある方は、家族と意志を交えて話し合い、急変時はすぐ対応していただけるよう準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる際は、GHでの生活状況や身体面・精神面の状況等を詳しく説明し、移られた後の本人の状態の確認等を行い、必要に応じてアドバイス等行うようにし、リロケーションダメージを防ぐようにしている。		併設の特養に移られた方がおり、入居者と一緒に時々遊びに行き様子を見てくるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	周囲に察知されたくないであろうと思われる時は、さりげない声掛けで誘導したりプライバシーに配慮したり対応している。又、個人情報の取扱に関しては同意書等をもらい、十分注意して対応、守秘義務に基づき情報が外部に漏れることのないよう注意を払っている。		高齢者介護の最大のポイントは“尊厳”であり、その尊厳が守らなければならないのが認知症高齢者であるということを念頭に置き、日々の対応にあたっていかなければならない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の中には自分の希望や思いを出せる方とそうでない方がいるので、わかりやすい選択肢を提示したり、表情から察したりしさいなことで自己決定ができるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の生活のリズムに配慮しながら起床や入浴時間、食事にかかる時間、その日の希望等に応じられるよう柔軟な対応を図るようにしている。		可能な限り本人の希望やペースに合わせられるようその時々状況に応じた対応をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば化粧品等購入したり、行きつけの理美容室に行ったりしている。		近所の理容院が併設のデイサービスにボランティアに来ているので、この近隣の方などは顔見知りということもあり、そちらを利用している人もいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフが一緒に食事の準備・片付け等行っている。好き嫌いも考慮し、食べられないものは代替にしたり献立作成時に希望を聞き、メニューに取り入れたりしている。		希望メニューが固定化してしまう傾向にあるので、選択肢をあげてその時に食べたいものを決めてもらうなど工夫している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや好きな飲物等、欲しいものがあれば買物時に選んで買ってもらっている。又、お茶飲み時や食事時等選択してもらう場面を設け、本人が自己決定できるよう支援している。		その時々により好み変動することもあるので、スタッフ間で報告し合い、状態把握するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの状況に合わせて排泄チェック表を作成し、おおよその排泄パターンを把握し、リハビリパンツ、尿とりパット、失禁パンツ等日中、夜間、外出時等に応じて使い分けている。		排泄の失敗で本人の自信の喪失にならないよう、切り替え時期等タイミングを見極めながらパット等の使用を行うようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調や希望を聞き、入浴していただいている。		車いすの方も楽しんで入浴していただけるよう、介助方法や介護用品等工夫しながら支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼、長いす、ソファなどのスペースを確保し、休息の支援をしている。一人ひとりの睡眠パターンも大体把握できているので、眠れない場合などは話をしたりお茶を飲んだりして一緒に過ごし、気持ちが落ち着くまでそばにしているようにしている。	○	入居者一人ひとりの生活パターンがくずれないように、様子を観察しながら、日中の活動を促すように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事手伝い、植物の世話、縫物等それぞれの得意分野で役割意識をもち、力を発揮していただけるよう支援している。レク活動等も本人の希望に沿えるようその時々で行うようにしている。	○	心身両面での低下がみられる場合でも、たとえ小さなことでも役割や楽しみごと等を等を見つけられるよう支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方や希望される方は所持されており、買物等や外出時に自分で欲しいものを買えるよう支援している。	○	最近では財布をどこにしまったかわからなくなったり「盗まれた」と訴えるケースもみられるので、しまい場所のパターン等も把握し、対応できるようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	突然の希望にもなるべく応じられるよう、日程の調整をして外出している。どうしても調整がつかないときは本人に説明し、後日行けるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉旅行やお墓参り、お祭り見物等希望が聞かれれば計画を立てて家族の協力も得ながら本人の希望に沿うよう支援している。	○	外出先の状況確認も忘れずにリサーチしておくようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は家族や親戚等に電話をかけてもらっている。宅配便等が届いた際は御礼の電話をし、本人とも話をしてもらい近況報告している。	○	プライバシーにも配慮し、本人がかかる場合は間違い電話にならないよう対応が必要。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間を設定していないので、外出中でない限りはいつでも面会できる。部屋以外にもフロア内のスペースで面会される方もいるので、居心地の良い空間作りをこころがけている。	○	認知症の進行により家族の顔を忘れてしまったり、別の人物と勘違いする方もいるので、そういう場合はスタッフもしばらく同席するなどフォローしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保等、緊急かつやむを得ない事業で何らかの拘束が行われる場合、その理由、方法、期間等を明記した記録、家族等への説明、同意書等があるが、基本的には拘束は行わないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はどこにも鍵はかけておらず出入りは自由である。一人で外出しそうになる時は様子をみながら、さりげなく声をかけたり、後から付いていく等し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフ間で声をかけながら見守り及び所在の確認を行っている。お部屋で過ごされている方にはお茶を持って行くなどし、様子をみに行くようにしている。夜間は2時間毎の巡視、都度の見守りを行っている。		体調不良時等、店頭の危険が考えられる場合はセンサーマット等使用し、起きたらすぐ対応できるように安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管・管理方法等入居者の状態変化に合わせ対応できるよう、日頃の状態把握に努め報告しあうようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併施設設と合同でリスクマネジメント委員会を設けており、事故報告書、ヒヤリハット等各事業所の傾向を探り、対応等話し合っている。火災や地震に関しては避難訓練等行い、いざという時に備えている。	○	今後宮城県沖地震レベルの大地震の可能性も考えられるので、地震等の避難訓練や対応策等話し合っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル等作成し、迅速に対応できるように、看護師の指導等も受けている。 夜間は緊急時対応マニュアル等目につくところに掲示し、対応できるようにしている。		救急法やAEDの使用方法等の研修会にも参加しているが、実際の場面であせらず、冷静に対処できるよう一人ひとりが自信をもつ。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で災害応急対策のマニュアル作成しており、大きな災害にも対応できるようにしている。避難訓練は年6回実施し、内1回地域の方と消防署の協力を得て総合防災訓練を行っている。		火災通報装置には近所の協力員の方も登録されており、万が一火災が起こった際は自動的に連絡が行き、かけつけてくれるようになっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、面会時各ご家族へ考えられるリスク等について説明し、ご家族の意見等もうかがうようにして対応策等話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックをし、その日の状態をつかみ、特変がある場合はスタッフ間で報告しあい必要な場合は速やかに病院受診している。	○	入居者の中には身体面の状態だけでなく、精神状態によっても、体調の変化を生じることがあるので、原因等についても把握できるよう観察を行うようにする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬内容を個別にファイルし、スタッフ間で把握できるようにしている。又、薬の変更や追加があった場合は特に観察を慎重に行い、副作用等みられないか確認するようにしている。	○	副作用等の症状がみられる場合は、早急に病院に連絡し、医師の指示をもらうようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の食品や乳製品水分摂取等で便秘の予防に努めており、なるべく下剤にたよらないようにしているが、どうしても必要な方には本人の負担にならない程度で下剤服用してもらっている。	○	排泄チェック表等で排便間隔の確認し、なるべく便秘の状態にならないよう早目に対応できるようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼・夕食後の口腔ケアを個別に支援し、一人ひとりの状態に応じ口腔内の清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量を記録し、スタッフ間で把握できるようにしている。食欲低下時は本人のその時の好みに応じ代替品を提供し、摂取量が低下しないよう努めている。栄養面では併設の管理栄養士にアドバイスを受け献立に役立っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルに基づき、予防や対応を図っている。又、食中毒予防等の内容で学習会を行っている。インフルエンザの予防接種も毎年入居者、スタッフとも受けており、流行時期にはうがい・手洗いの励行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品に関わる物品に関しては清潔の保持に努め、手洗いの励行、物品の消毒等行うようにしている。食材は鮮度や賞味期限等確認し、使い切ったり処分したりしている。		衛生委員会にも参加し、衛生管理等に努めている。又、食中毒予防の職員研修会や学習会も開催している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわり、建物の周囲等家庭的な雰囲気を出すよう工夫し、入口にはベンチを置いたり、玄関に花や植物・絵等を飾り、明るい雰囲気が出るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・フロアなどには季節毎の装飾品や写真を飾ったりし、視覚で四季を感じ取っていただいている。又、台所の音やにおい、歌が好きな方には音楽テープを流すなどし、聴覚や嗅覚等にも訴えかけられるよう工夫している。	○	最近気の合う仲間同士が集まるスペースに、直近の写真を飾り、楽しんでもいただいている。又、食事には旬の食材を使って季節を感じてもらえるよう工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロア、こたつ等気の合う仲間が集まり、お茶を飲んだりおしゃべりしたり思い思いに過ごしていただいている。	○	スタッフから死角になるスペースを確保し、“見られている”という感を与えないよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み物品については、個々人に差があるが、本人や家族と話し合いながら、その人らしい部屋づくりの工夫をしており、本人の好きな花、絵や作品等も飾り楽しんでいただけるよう工夫している。	○	入居時に一度に家具や荷物等を持ち込んでも大丈夫な方と徐々に増やしていった方がいい方と、対応が異なるので見極めが必要。又、今後は消防法との兼ね合いも考慮し、持ち込み品の検討をしていかなければならないと思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・温度調節はフロアの温・湿度計をチェックしながら適宜行っている。		一人ひとりが暑さ、寒さの感じ方も異なるので、個々に状態をみながら調整するようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居されている方の状態の応じてトイレや浴室・ベッド等に手すりを追加してきている。9名それぞれにADLのレベルも異なるので、設置の際の見極めが必要。	○	入居者一人ひとりが身体機能を維持しながら安全に生活できるよう環境の改善に取り組んでいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ADL状況も一人ひとり異なるので、その日の状態等もよく観察し、混乱や失敗なく生活できるよう配慮している。	○	その時々に応じて、同じケースで成功するとも限らないのでスタッフ間でその時々一人ひとりの状態を把握し、大きく混乱したり、自信を失わないよう、支援していく。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周で散歩やひなたぼっこをしたり、ベランダではプランターで植物や花を植え世話をしてもらったり、洗濯物を干してもらったりしている。		プランターの大葉やネギ、春菊等季節の野菜も収穫し食材に活用している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)